

---

# 岐阜県立高山工業高等学校

学 校 長 浦 山 朋 征  
学 校 住 所 高 山 市 千 島 町 2 9 1 番 地 電 話 0577-32-0418

---

1 会議の名称 令和元年度学校運営協議会による会議（第3回）

2 会議の構成 委 員

中野谷 康 司	高山市教育長
石 原 嘉 和	高山市立日枝中学校校長
桐 谷 一 夫	高山市立花里小学校校長
中 垣 満	本校育友会会長
平 野 洋 二	千島町町内会副会長
小屋垣内 浩之	学校評議員（小屋垣内農園（自営））
山 下 恵美子	学校評議員（山下提灯（自営））
横 谷 政 恵	学校評議員（理容こいど（理容師））
稲 野 千賀子	地区代表
岡 田 梅 代	地区代表

(順不同)

学校側	浦 山 朋 征	校長
	藤 守 学	教頭（司会）
	和 仁 崇 幸	事務長
	岩 島 義 則	教務主任
	上垣内 忠	生徒指導主事
	門 前 雅 人	進路指導部長
	川 上 登	工業部長（記録）

3 会議の目的 「岐阜県立における学校運営協議会の設置等に関する規則」に基づき、令和元年度の教育方針・重点及び学校課題を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和2年2月1日（土） 15:30～17:00 高山工業高等学校（図書室）  
委員9名と学校側7名が出席

5 会議の概要（協議事項）

- (1) 卒業作品展参観
- (2) 学校長挨拶
- (3) 会長挨拶
- (4) 卒業作品展のご感想、ご意見

意見1 他校の発表も見学させていただいたが、高山工業高校にはものづくりの魅力があり、実際に作品を見ることができるのでずいぶん印象が違うと感じた。プレゼンテーションだけでなく、実際に作品を手に取り、どこを工夫して取り組んだのかをよく説明できていた。

- 意見2 11月に小学校でのプログラミング教育を支援していただいた時に用いたマイクロビットが災害支援ロボットに活用されており、こういうところに生きてくるといことがわかった。来年から小学校でプログラミング教育が導入されるので、また連携をとって指導していただけるとありがたい。
- 意見3 生徒が温和で優しく丁寧な雰囲気の説明してくれてよかった。横断歩道のアイデアがよかった。先輩のアイデアを引き継ぐことで進化していることが楽しみである。
- 意見4 今まで何度か参観させてもらっているが、今年度は遊び心が前面に出すぎている作品もあり、残念に感じた。そのおかげで小さい子どもたちが来場するようになったと思うが、遊び心がありながら真面目に取り組んできたことが分かるような作品であるとよかったと思う。

#### (5) 本年度の本校の教育活動(現状と課題)報告

教 頭：①本年度自己評価

資料に基づき、取組状況・実践内容及び成果と課題を説明した。

(詳細については各分掌長より)

②来年度への課題と改善策

以下の2点について説明した。

(ア) 地元就職率が低いので、「ものづくり」を通じた地域貢献につながる事業推進を図る中で、地元企業と連携し、地元就職率を上げたい。

(イ) 入学希望者が減少しているので、中学生及びその保護者への積極的な広報活動の推進だけでなく、中学校教員に「ものづくり」の魅力を伝えるためにも出前授業等を行い、入学者数の増加につなげたい。

教 務 部：生徒実態調査で生徒の学習時間が少ないため、「自主学习ノート」指導を行ってきたが、学習時間は増えていない。来年度から「キャリア・パスポート」を活用した学習習慣の改善を図る取組を検討する。

生徒指導部：遅刻者の延べ人数(回数)が増加しており、個々の生徒状況に合わせた対応が必要である。また、コミュニケーション不足等によりトラブルを訴えるケースも見られる。

進路指導部：就職試験におけるグループワーク対策がさらに必要だと考え、今後はグループディスカッションやディベートに対する指導も行っていく。また、進学希望者に対する指導が1年時よりできるよう、来年度から入学当初に進路希望調査を行う。

工 業 部：来年度は資格取得の支援をさらに強化し、合格者数を増やしたい。地域貢献活動の充実は大切であるが、指導目的・効果を明確にして参加する活動を精選し、通常の学習指導を充実させたい。中学校で「技術」を担当する教員が要望する内容を調査し、それに応じた出前授業を実施したい。

(6) 協議 「本年度の取組に対するご感想やご意見」

- 意見 1 卒業生が数カ月で仕事を辞めたという話を聞いたが、今後の求人に影響するのではないかと心配である。就職指導のあり方を考える必要があるのではないかと。
- 意見 2 学年が進むにつれ生徒数が減少しているようだが、魅力的な学校づくりをして、高山工業高校に入りたいという生徒を増やすことが必要でないかと思う。
- 学 校 現 3 年生の生徒数が少ないのは事実だが、中途退学者数は減少している。
- 意見 3 中学校との連携を計画していると聞いてありがたいと感じる。1月6日にも中学校の教員向けの講習を開いていただいた。中学校技術の専門教員は少ないので、今後も高山工業高校の力を借りる機会があると思う。そういった場も子どもたちが将来について考える機会としていきたい。

(7) 校則の改定について・・・生徒指導主事より説明

- 意見 1 「夜間外出は 22 時まで」という「岐阜県青少年健全育成条例」について校則の付録として掲載し、きちんと生徒・保護者に周知した方がよい。
- 意見 2 平成 26 年に家庭教育支援条例が定められ、子どもの教育の責任は家庭にもあると明確化された。子どもの教育の責任を家庭にも委ねるという流れがあると思う。
- 意見 3 アルバイトは実際どれくらいしているのか。
- 学 校 夏休み及び冬休み期間中に延べ 130 人くらいで、約 3 分の 1 の生徒がしている。

(8) 今後の高山工業高校の在り方について

- 意見 1 高山市内の中学 3 年生のうち、県外や地区外の高校に入る生徒が一割強と多く増加傾向にある。その数を予想することは難しいが、地区内の高校志願者数が減少している一因ではないか。
- 意見 2 私学無償化の流れもあり、今後入学希望者数を伸ばしていくのは難しい状況にある。子どもの数も減っているが、産業教育は絶対に必要なもので、どのように学科体制を維持し、人数を確保するのが課題である。
- 意見 3 飛騨地域の企業への就職を考えた場合、高山工業高校卒業生が勤めることのできる企業は木工関係を除くとそれほど多くない。今後は ICT 技術の進展により在宅勤務が技術とともに広がると思うので、高山に住み続けられるような企業側の努力も必要だと思う。子どもたちの意識としても飛騨地域に勤めたいと思う子が増えてくれるとありがたい。高山工業高校で身に付けた技術を持った人材は飛騨地域に確実に必要だと思う。
- 意見 4 かつて、地域のスーパーマーケットで小中学生向けのロボット大会が高山工業高校主催で行われていた。自分の子どもは高山工業高校の先輩に教わりながらロボットを作り、活躍できたことで自信をつけ、高山工業高校への進学につながった。このような行事を高山工業高校で再びできるとよい。

6 会議のまとめ

本日のご意見を踏まえ、来年度も活力ある学校となるよう、各種教育活動を充実させていきたい。